

授業改善プラン

特別支援学級 音楽

【目的】

- 生徒の課題を分析し、適切な指導方法の工夫、改善を行う。
- 生徒、保護者に課題、改善の取り組みを明示し、学校と一体になって学力向上へ向けた取り組みを行う。

学力調査・定期考査・生徒の授業アンケート・授業の様子から分析して作成する。

観 点	1・2学期		3学期
	課題分析	具体的な改善プラン	改善プランの評価 来年度に向けて
音楽への関心・意欲・態度	○音楽が好きで生徒が多い。音楽を苦手と感じながらも、頑張ろうという姿勢の生徒もみられる。 ▲個人で声量の差がある。発言をする生徒が偏ってしまうことがある。	より主体的な活動になるように、意見を発表する活動を増やす。	意見を発表する活動を増やすことができた。
音楽表現の創意工夫	○アドバイスをすると、表現を工夫しようとする姿勢が見られた。 ▲自分自身で考え、表現を工夫させる力を少しずつ身に付けたい。	発問を工夫し、表現の方法を自分自身で考えられるように促す。	表現の方法を自分自身で考えられるように促した。ハンドベルやトーンチャイム演奏を取り入れることで周りを聴いて演奏することができた。
音楽表現の技能	○声を出そうと意欲的であった。よりよい表現を追い求める姿勢が身に付いてきた。 ▲表現の幅をさらに広げたい。意欲的に取り組んでいるが技能を習得するまでに時間がかかる。	範唱を聴いて学ぶ時間を増やす。くりかえし練習をして身に付ける。	くりかえし練習をすることで自信をもって演奏することができた。
鑑賞の能力	○音楽を聴き、感じたことを表現できた。 ▲取り組みに差があった。	発問を工夫し、聴くべきポイントを絞る。	発問を工夫し、聴くべきポイントを絞ることができた。生徒にとって親しみやすい映画音楽のオーケストラアレンジを鑑賞した。
授業改善の検証方法	授業への取り組み姿勢、ふりかえりカードなど	授業への取り組み姿勢、ふりかえりカードなど	授業への取り組み姿勢、ふりかえりカードなど

小中一貫教育の視点	具体的な取り組み (交流・連携等)	2学期までの 成果と課題	1年間の成果と 今後の課題
自分の力でたくましく 生きぬく子の育成 ～9年間の継続的な一貫性 のある指導を目指して～			

授業改善プラン

特別支援学級（美術）

【目的】

- 生徒の課題を分析し、適切な指導方法の工夫、改善を行う。
- 生徒、保護者に課題、改善の取り組みを明示し、学校と一体になって学力向上へ向けた取り組みを行う。

学力調査・定期考査・生徒の授業アンケート・授業の様子から分析して作成する。

観 点	1・2学期		3学期
	課題分析	具体的な改善プラン	改善プランの評価 来年度に向けて
美術への 関心・意欲・態度	どの課題にも前向きに取り組むが、個々に進度の差が大きい。	早く終わった生徒には別に発展課題を用意する。	進度の差については発展課題を用意して対応することが有効であった。今後も教員で連携し、柔軟に対応しながら、生徒の意欲を大切にして表現に取り組みせたい。
発想や構想の能力	新しいことを試すことにためらう生徒がいる。	試しながら、試行錯誤ができる課題を設定する。	構想の時間をしっかりととることで、安心して表現に取り組むことができた。試行錯誤の時間は今後もしっかりと取れると良い。
創造的な技能	技能の差が大きく、進度や仕上がりに差が出やすい。	技能の差を気にせずに取り組むことができる課題を設定する。	生徒の実態に合わせて、提示する材料や手順を工夫して提示したことで、どの生徒も作品を完成させることができた。今後も丁寧に生徒を見取りながら授業づくりをしていくと良い。
鑑賞の能力	それぞれの作業に集中するので、個人作業で終わってしまいがちになる。	互いの作品を見あう時間を意識的に多く設定する。	完成した後には作品を見合う時間を取ることで、振り返りができ、充実した制作ができた。互いの感性に触れる時間は継続して確保していきたい。
授業改善の検証方法	作品、授業態度	作品、授業態度	作品、授業態度

小中一貫教育の視点	具体的な取り組み (交流・連携等)	2学期までの 成果と課題	1年間の成果と 今後の課題
自分の力でたくましく 生きぬく子の育成 ～9年間の継続的な一貫性 のある指導を目指して～	作ったり、描いたりする活動の楽しさを味わう。	より完成度が上がるように、個人個人に丁寧に声掛けをする。	どの生徒も、自分の表現を向き合い制作に取り組むことができた。創作活動への意欲を失わずに今後も取り組んでほしい。

授業改善プラン

特別支援学級 教科（国語）

【目的】

- 生徒の課題を分析し、適切な指導方法の工夫、改善を行う。
- 生徒、保護者に課題、改善の取り組みを明示し、学校と一体になって学力向上へ向けた取り組みを行う。

学力調査・定期考査・生徒の授業アンケート・授業の様子から分析して作成する。

観 点	1・2学期		3学期
	課題分析	具体的な改善プラン	改善プランの評価 来年度に向けて
国語への 関心・意欲・態度	学習内容への興味・関心に個人差がある。	書く・読む・話すなど、観点別に様々な学習を取り入れていく。	かるたや劇、作文などグループで取り組み楽しく学べる手立てを講じる。
話す・聞く能力	意欲的に聞こうとする姿勢があるが、発言や発表に抵抗感がある。	明瞭な発音で正しく音読することから自信をつけさせる。	劇の発表で自信をつけ、伝わりやすい発声について学習できた。
書く能力	感想や気持ちを表現することや、文章を書くことに苦手意識がある。	文章の構成を理解させ、身近なテーマで作文の書き方を実践していく。	作文では構成を意識して文章を書くことができた。書く機会を増やす。
読む能力	音読に意欲的に取り組んでいる。読解には教師の補助が必要である。	読解は補助的な発問を加え、ワークブックの問題文に解答していく。	補助的な発問から文章を読み取ることで、理解を深めることができた。
言語についての 知識・理解・技能	漢字に苦手意識がある。熟語や慣用句などの意味がわからないことがある。	漢字をパーツごとに覚えたり、部首で分類したり、ゲーム感覚を取り入れる。辞書を活用する。	毛筆書きにして筆順や形を捉えることができた。筆記具に工夫をしている。
授業改善の検証方法	定期考査 授業での発言・態度 ワークシート・問題集	定期考査 授業での発言・態度 ワークシート・問題集	定期考査 授業での発言・態度 ワークシート・問題集

小中一貫教育の視点	具体的な取り組み (交流・連携等)	2学期までの 成果と課題	1年間の成果と 今後の課題
自分の力でたくましく 生きぬく子の育成 ～9年間の継続的な一貫性 のある指導を目指して～	教科書や指導案を共有して中学校での学習に生かす。	既習事項の復習で学習への意欲や自信がついた。今後は新しい学習事項を積み上げていく。	同じ内容でも手段や方法を変えて意欲的に反復学習できた。さらに工夫を重ねていく。

授業改善プラン

特別支援学級 教科（ 作業学習 ）

【目的】

- 生徒の課題を分析し、適切な指導方法の工夫、改善を行う。
- 生徒、保護者に課題、改善の取り組みを明示し、学校と一体になって学力向上へ向けた取り組みを行う。

学力調査・定期考査・生徒の授業アンケート・授業の様子から分析して作成する。

観 点	1・2学期		3学期
	課題分析	具体的な改善プラン	改善プランの評価 来年度に向けて
関心・意欲・態度	自分で作業内容を決めて調べ学習をすることで、関心を高めることができた。	出来高や仕上がった製品の使い方を示すことで、意欲や態度を育てる。	見通しをもって取り組むことができた。来年度は意欲的に取り組めるようにする。
思考・判断	内容によっては自分で考えて判断することが難しいこともあった。	授業の最初にグループに分かれて、生徒達の間で作業内容の確認を行わせる。	見通しがもてたことで来年度は生徒に判断をゆだねる場面を多く与えるようにする。
技能	同じ内容を繰り返すことで上達する生徒とそうでない生徒が見られた。	生徒の実態に合わせて補助具や自具を用意し、上達を図る。	道具の扱いに慣れたので、来年度はより少ない支援でできることを目指すようにする。
知識・理解	知識・理解の定着にはばらつきが見られた。	ワークシートを用いて深められるよう、シートの内容を見直す。	調べ学習や話し合う場を用意し、知識や理解の定着を図るようにする。
授業改善の検証方法	授業の様子 出来高 ワークシート	授業の様子 出来高 ワークシート	授業の様子 出来高 ワークシート

小中一貫教育の視点	具体的な取り組み (交流・連携等)	2学期までの 成果と課題	1年間の成果と 今後の課題
自分の力でたくましく 生きぬく子の育成 ～9年間の継続的な一貫性 のある指導を目指して～	合同宿泊学習や体験入学 への参加	合同学習や行事等で得た 実態をもとに具体的な支 援方法を構築する。	個々の実態をもとにまず は見通しをもって取り組 めるようにする。

授業改善プラン

特別支援学級 年 教科（保健体育）

【目的】

- 生徒の課題を分析し、適切な指導方法の工夫、改善を行う。
- 生徒、保護者に課題、改善の取り組みを明示し、学校と一体になって学力向上へ向けた取り組みを行う。

学力調査・定期考査・生徒の授業アンケート・授業の様子から分析して作成する。

観 点	1・2学期		3学期
	課題分析	具体的な改善プラン	改善プランの評価 来年度に向けて
保健体育への 関心・意欲・態度	単元によっては、積極的に参加できない生徒がいる。	生徒一人一人の得手不得手を把握し、実態に合わせて目標設定を行うようにする。	生徒の実態に合った種目の選択やルール設定を工夫することで、どの生徒も積極的に参加できた。
思考・判断	単元によっては、イメージしたとおりに体を動かすことが難しい生徒がいる。	ICTやカメラを活用し、自分の体のイメージをつかめるようにしていく。	ICTを活用することで、少しずつ体のイメージをつかめるようになってきた。
技能	単元によっては、技能に大きな差がみられる。	スモールステップの指導を心掛け、STと連携を図りながら指導にあたっていくようにする。	スモールステップを意識した支援を行うことで、技能の差が小さくなった。
知識・理解	ルールを理解して、取り組むことが難しい生徒がいる。	ルールを簡略化したり、写真や絵カードを活用して、ルール理解をうながしていくようにする。	ルールの簡素化や視覚支援を活用することで、ルールを理解して取り組めるようになってきた。
授業改善の検証方法	授業観察 実技テスト		

小中一貫教育の視点	具体的な取り組み (交流・連携等)	2学期までの 成果と課題	1年間の成果と 今後の課題
自分の力でたくましく 生きぬく子の育成 ～9年間の継続的な一貫性 のある指導を目指して～	授業参観や合同行事への参加。	次年度入学予定児童の大きな実態把握はできたので、今後小学校担任や保護者と情報を共有していく。	計画的な児童の実態把握が、中学校での充実した支援につながった。次年度も計画的に実態把握に努めていく。